

高槻尋常高等小学校の就学率

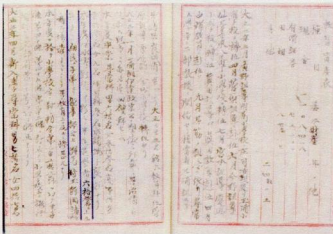


IV-5-10

25 増加する就学率

小学校に入る年齢は満6才から満14才までと決まられていましたが、約半分の人は学校へ行けませんでしたが、明治の末期になるとほぼ全員の方が学校に通うようになり、20世紀の初めには国民がほぼ全員が読めるようになりました。

IV-5-10

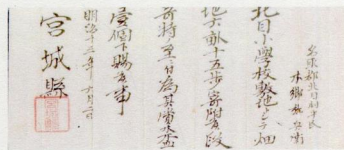


IV-5-11

27 たくさんいた退学者

東多賀尋常小学校が基礎より
 災害や疾病が起きると学校に来られなくなる子供が多くなりました。同上小学校の前身のこの学校では、大正3年の洪水で63名の退学者を出しました。多くは貧しい農家の子供で、飢饉・伝染・盗難などの工場に働かれました。

IV-5-11



IV-5-12

北目小学校への土地提供

学校をつくるときには地主の方の協力が必要でした。左様（現在の堂島の一角）では、明治15年に小学校を建てたため地主の方から土地などの提供を受けました。

IV-5-12



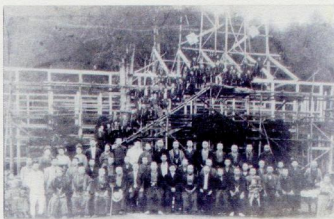
IV-5-13

18 阿刀田義満氏の写真

（明治35年4月18日撮影） 下埴小学校 済美

明治時代の下埴町の村長阿刀田義満さんは、村に学校を作るために奮闘しました。一軒一軒訪ねて、イクス（建築材）の中でよい木を選んで学校のために献納してくれるようお願いしました。同じように他の村でも、村長さんや村の有力者が協力して学校を建ててのちに協力しました。

IV-5-13



IV-5-14

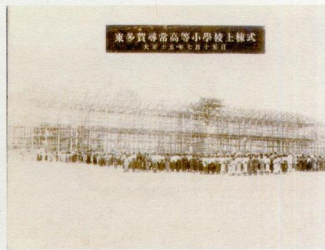
館腰尋常高等小学校校舎上棟式

IV-5-14

校舎の新築と増築

明治23年には授業料が無料になりました。また、東多賀は狭くなくなり学校へ通う人が増えました。そのため、各学校では校舎の新築や増築が始まりました。

IV-5-14



IV-5-15

東多賀尋常高等小学校校舎上棟式

IV-5-15